


令和4年4月22日		5年1組
教科・単元名	算数「直方体や立方体のかさの表し方を考えよう」	
実践の概要		
単元の導入場面。展開図を提示しどの立体のかさが大きいのか考えることを通して、課題を見付けることから始めた。子供たちは、実際に重ねてみたり、マスの数を数えて計算してみたりするなど、一人一人が自分の考えた方法で予想を立てていた。		
子供の姿		
 <p>友だちの考えを見て、「わかった。」とつぶやく。「先生、紙もらってもいいですか。」と発言し、行動する。紙とタブレットを使いながら考えをまとめる。</p> <p>「自分の考えは合っていると思う。でも友だちの考えも納得できる。だから、どちらが正しいかわからない。」と話す。展開図を見ながら、再度思考する。</p> <p>具体物を使いながら自分の考えを説明する。</p>		
感想	P	<p>ロイロノートで自分と友だちの考えを比べる姿が見られた。A 児が考えを更新した時、B 児がすぐに新しい考えであることに気づき、考えたことをつぶやいていた。B 児のそのつぶやきが広がり、A 児の考えが全体に伝わった。ICT 機器を子供が効果的に活用している場面であった。</p> <p>具体物を用意し、見たり触ったりしながら考えることができるようにしたことで、子供たちは、自分の思考にあった方法で考えることができた。</p>
	M	<p>直接比較や間接比較の考えをもう少し取り上げたかった。早い段階で「数」が出てきた時の問い返しが良くなかった。直接比較や間接比較のよさ、計算で考えることのよさ、それぞれを感じることができるよう展開にしたかった。(授業者より)</p>
	I	<p>気になることがあると、課題解決のために、すぐに行動することができる。友だちの考えを見て、新たな気づきを得た子が「紙もらっていいですか?」と発言し、棚に紙を取りに行く姿、自分の思考をどんどん深めていく姿が、おもしろかった。</p>
まとめ		
<p>子供たちは、自分の考えをもち、表現することができていた。また、友だちの考えと自分の考えを比べる中で、考えを広げたり深めたりすることもできていた。「具体物を用意し、体験する中で考えることができるようにする。」「ICT 機器を活用し、いつでも友だちの考えを知ることができるようにする。」、それぞれの良さを生かすことで、算数としての学びを深めることができた。</p>		